

吸入ステロイド薬抵抗性の難治性喘息性咳嗽に対して長時間作用型吸入抗コリン薬Tiotropium bromideの併用が有効であった1例

福光 研介, 金光 禎寛, 武田 典久, 浅野 貴光, 市川 博也, 土方 寿聡,
竹村 昌也, 新実 彰男

名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学

【背景】長時間作用型吸入抗コリン薬であるTiotropium bromide (以下Tio) はCOPDやコントロール不良の喘息患者に対して広く使用されている。近年, Tioの急性咳嗽や小児の慢性咳嗽に対する有用性が報告されているが, 成人の慢性咳嗽に対する有用性やその機序は明らかではない。今回, 吸入ステロイド薬 (Inhaled corticosteroid, ICS) 治療抵抗性の難治性喘息性咳嗽に対して, Tioの併用が有効であった1例を経験したので報告する。

【症例】29歳女性。2013年5月より喘鳴を伴う咳嗽が出現し, 同年8月に当院専門外来を受診した。呼気NO濃度: 161ppbと高値を示しており, 喘鳴を伴っていることから気管支喘息と診断した。ICSや長時間作用型吸入 β 2刺激薬, ロイコトリエン受容体拮抗薬などの喘息治療に加えて, プロトンポンプ阻害薬や消化管運動機能賦活薬といった胃食道逆流症に対する治療を受けるも咳嗽は遷延し, 気道感染を契機に一時的な増悪を繰り返していた。2015年5月より前治療にTioを追加したところ, 同年7月時点で, 咳VAS (Visual analog scale): 79mm \rightarrow 7mmと咳嗽は著明に緩和され, LCQ (Leicester Cough Questionnaire) で評価した咳関連QOL (Quality of life) も5.75 \rightarrow 18.1と著明に改善した。また, カプサイシン咳感受性もC₂: 0.61 μ g/mL \rightarrow 9.76 μ g/mL, C₅: 0.61 μ g/mL \rightarrow 19.52 μ g/mLと劇的な改善を認めた。

【結語】Tioは咳感受性受容体を介して, ICS治療に抵抗性を示す難治性喘息性咳嗽を緩和させる可能性が示唆された。